

次の簿記上の取引について仕訳をせよ。

2016年1月1日、株主から現金400,000円の出資を受け、小売店の営業を開始した。

1/1 (借方) (貸方)

上の仕訳から、期首時点(2016年1月1日時点)の貸借対照表を完成させよ。

貸借対照表
(2016年1月1日時点)

(資産の部)		(資本の部)	
1. 現金	()	1. 資本金	()
		資本合計	()
資産合計	()	負債・資本合計	()

続けて、次の簿記上の取引について仕訳をせよ。なお、勘定科目は以下の一覧から選択すること。

勘定科目一覧

現金 売掛金 有価証券 商品
 備品 買掛金 借入金 資本金
 売上 売上原価 給料 保険料
 減価償却費 減価償却累計額 貸倒引当金繰入 貸倒引当金
 有価証券評価益

1月5日、商品30,000円を掛けて仕入れた。

1/5 (借方) (貸方)

1月8日、銀行から現金100,000円を借り入れた。

1/8 (借方) (貸方)

1月10日、仕入価額20,000円の商品を28,000円で売り上げ、代金は掛けとした。

1/10 (借方) (貸方)

1月25日、従業員給料6,000円を現金で支払った。

1/25 (借方) (貸方)

上記1月中の取引について行った仕訳を、次ページ以降の元帳(Tフォーム)へ転記せよ。

現 金	
1/ 1	400,000
	12/31 次期繰越
1/ 1	前期繰越

売 掛 金	
	12/31 次期繰越
1/ 1	前期繰越

有 価 証 券	
	12/31 次期繰越
1/ 1	前期繰越

商 品	
	12/31 次期繰越
1/ 1	前期繰越

備 品	
	12/31 次期繰越
1/ 1	前期繰越

減価償却累計額

12/31 次期繰越	1/ 1 前期繰越
------------	-----------

貸倒引当金

12/31 次期繰越	1/ 1 前期繰越
------------	-----------

買掛金

12/31 次期繰越	1/ 1 前期繰越
------------	-----------

借入金

12/31 次期繰越	1/ 1 前期繰越
------------	-----------

資本金

12/31 次期繰越	1/ 1 400,000	1/ 1 前期繰越
------------	--------------	-----------

繰越利益剰余金

12/31 次期繰越	1/ 1 前期繰越
------------	-----------

売上

--	--

有価証券評価益

--	--

売 上 原 価

給 料

--	--

保 険 料

--	--

減 価 償 却 費

--	--

貸倒引当金繰入

--	--

損 益

各勘定から、1月31日時点の合計残高試算表を作成せよ。

合計残高試算表

2016年1月31日

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
		現金		
		売掛金		
		商品		
		買掛金		
		借入金		
		資本金		
		売上		
		売上原価		
		給料		

1月末の合計残高試算表から、1月末時点の貸借対照表と1月1日から1月31日までの損益計算書を作成せよ。

損益計算書

(2016年1月1日から2016年1月31日)

(費用)		(収益)	
1. 売上原価	()	1. 売上高	()
2. 給料	()		
費用合計	()		
当期純利益	()		
合計	()	合計	()

貸借対照表

(2016年1月31日時点)

(資産の部)		(負債の部)	
1. 現金	()	1. 買掛金	()
2. 売掛金	()	2. 借入金	()
3. 商品	()	負債合計	()
		(資本の部)	
		1. 資本金	()
		2. ()	()
		資本合計	()
資産合計	()	負債・資本合計	()

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	279,000						279,000	
売掛金	18,000							
有価証券	80,000							
商品	60,000							
備品	120,000							
買掛金		13,000						
借入金		100,000						
資本金		400,000						
売上		238,000						
売上原価	170,000							
給料	6,000							
保険料	18,000							
	751,000	751,000						
減価償却費								
減価償却累計額								
貸倒引当金繰入								
貸倒引当金								
有価証券評価益 ()								

8桁精算表をもとに、2016年1月1日から2016年12月31日までの損益計算書と2016年12月31日時点の貸借対照表を作成せよ。

損益計算書

(2016年1月1日から2016年12月31日)

(費用)		(収益)	
1. 売上原価	()	1. 売上高	()
2. 給料	()	2. 有価証券評価益	()
3. 保険料	()		
4. 減価償却費	()		
5. 貸倒引当金繰入	()		
費用合計	()		
()	()		
合計	()	合計	()

貸借対照表
(2016年12月31日時点)

(資産の部)		(負債の部)	
1. 現金	()	1. 買掛金	()
2. 売掛金	()	2. 借入金	()
貸倒引当金	() ()	負債合計	()
3. 有価証券	()	(資本の部)	
4. 商品	()	1. 資本金	()
5. 備品	()	2. ()	()
減価償却累計額	() ()	資本合計	()
資産合計	()	負債・資本合計	()

元帳の収益と費用に属する勘定科目を損益勘定に振り替えるための仕訳を示したのち、それを元帳へ転記せよ。なお、日付は12月31日とする。

12/31 (借方)

(貸方)

損益勘定の残高にもとづいて当期の純損益を計算し、その純損益を繰越利益剰余金へと振り替える仕訳を行い、元帳へ転記せよ。なお、日付は12月31日とする。

12/31 (借方) (貸方)

各勘定を締め切り、繰越試算表を作成せよ。

繰越試算表
(2016年12月31日)

借方合計	勘定科目	貸方合計
()	現金	
()	売掛金	
()	有価証券	
()	商品	
()	備品	
	買掛金	()
	減価償却累計額	()
	貸倒引当金	()
	借入金	()
	資本金	()
	繰越利益剰余金	()
()		()